

小を描寫する處、ウチレヅ、スタインを世に傳へたる彼の獨逸の大詩人が、技術に匹  
 儔すべし。然れども、カーライルの文牘は英國に紹介するに全く謬りたる歴史の  
 書き方を以てせり。即ち其方法なるペリユンの唱道したる『淡たる光輝』に向つ  
 て甚だ重を措かず、専ら多輝の彩光を求むるに力を致し、切に一種の思想人物を貶  
 陟し、他の思想人物を稱揚するを以て其目的と爲し。感服す可き人傑の行爲は徹  
 頭徹尾感服せざる可らずといふの主義を實行せり。カーライルのミラボーは正し  
 く、アユマのモンテ、クリストと同じく小説中の人物なり。而してカーライルの  
 この方法は眞文癖と共に其後號の著作に於て益甚し。例へば『フレデリック大王  
 傳』の如き此の類なり。讀者は肯て此の如き歴史に信を措かさるべく其言説する  
 所の時世及び出來事に於ける教訓者として見る可きもの甚だ少し。吾人は之  
 に依つて唯だ其時世と出來事と並びに其間に主役を演じたる人物に對するカー  
 イルの考想を窺ひ得るのみ。又たカーライルは其風發する所の辯論を以て攪亂  
 したる世界に多く新奇の思想を遺さず。夫れ虚偽が竟に眞理に勝たず、虚構が實  
 際を制するとなき所以の理は此十九世に至り、カーライルの出づるを待て始めて

世に知られたるに非らず。然かも哲學上カーライルの教を遺したる所は此を措  
 て他に求むべからざるなり。要するにカーライルの價値は其の雄辯に在り、勢力  
 に在り、熱誠に在り、情操に在り、其眞物に類似する否とは問はず、人物の性質を  
 如として生けるが如くに描寫するに在り。總べて其傑作を通じて詩歌の脈管の  
 來往も極めて同情に乏ぼしき讀者をして是れ眞誠なる詩人の作業なりと思惟せ  
 しむるに在り。

カーライルの勢力を以てミルの勢力に對照する時は頗る趣の異なるを見る。宗  
 教の教旨を教ゆる専門家は措いて問はず、ミル、カーライルが有せし如き勢力を以  
 て英國の思想界を風靡せし者は、ヴィクトリア御宇の前後を通じて求む可らず。  
 ミルは天賦人權の行ひ得べきことを熱心に信じたるの人なり。今ルソーを以て  
 困厄神徒佛徒なりとせば、ミルは自由の神徒なり。彼以爲へらく若し最も善良な  
 る刺激に依りて作られたる教育と自由との勢力を推して男女の情を風化せば、人  
 間社會をして殆んど完全の域に到らしむるを得べしと。ミルが經濟學者にして  
 又た感情家なりしは奇なりと謂ふ可し。人有り曰く、彼は一人以てアダム、スミス

とペトラーシとを兼ねたるものなりと。是れ必ずしも誇大の戯言に非らざるなり。父に不可思議なる遊棲に伴ひたるも猶幼少の頃驚く可き學問の修養に従事したるとは彼をして凡庸の資性以外に一種奇異なる所以あらしめたり。而してミルは到底天才の人たるを失はず。其生涯の古樸簡素なる全く世態と相違かれり。然れども倫理の教導として其欠點はといへば通常社會の影響を斟酌すること少きに過ぎたるに在り。彼は終始眞誠の教育と高尚の鑑戒とを以てすれば最も凡庸の人を誘ふて英雄の行に倣ふて常に徳ることなからしむるを得べしとの原則を信奉せるもの如し。氏が其『經濟學』及び『論理學』を以て世に致したる丕功は勿論其學理並びに教訓上の議論に關係無し。惟ふに此二著たるミルの書く所をして唯だ此に止まらしむるも尙ほ且つ彼に英國の思想家並びに教訓家中の第一位を與ふるに足らん。然るに此等は其の當代に及ぼしたる影響の一字たるに過ぎざるのみ。天賦人權説の信仰は彼を驅つて所謂婦人解散の議を首唱せしめたり。此議の利害に關しては諸説區々にして一ならざるべしと雖も之に就てミルの致したる辯護并ひに感化の魔力に至つては人皆其見る所を一にせざる

を得ず。ミルは其名論文『自由の理』を以て原則を説定せんとして失敗せり。原則とは何ぞ人間に依つて以て言論自由の權利と國家の言論束縛權との區界を決定する所のもの是れなり。意ふに此間に精密なる界線を畫するは到底望むべきに非ず。畢竟この問題に於ても他の問題に於けるか如く立法者と人民とは相互讓歩を以て満足せざる可らず。然れどもミルの自由説たる少くとも言論自由の望む可き限りを高尚に主張したるものにて何人も此より以上の議論を爲し得べきに非らざるなり。明瞭にして公平の議論を爲すに於て古來ミルの右に出づるものなく如何に困難に且隱微なる問題も其明白なる説明の光輝を得て乍ち氷釋するを見る。又た其資性の感情的にして半ば詩的なるが爲め一見頗る無味なる經濟論に注入するに多少の人間の道徳と同情とを以てせり。或は曰くミルは經濟學と人情とを融和せりと。此言誠に然り。其の文體は光の如く明瞭にして其批評家の一人はミルは光の中に生活すと云へり。其言語の高調なるや往々にして崇嚴なる雄辯と爲り文中間沈痛にして深切なる諷刺の用ゐらるゝを見る。彼の著述に附帯して生ずる宗教上の信念の問題に立ち入るは予輩の茲に云爲すべ

き限りに非ずと雖も尙ほ注意するに足るもの有り。即ち其脱早の著述を見るに其觀察が頗る變化を蒙りたることは是なり。思ふに眞理に達するの願望を以て中心より動かされたるもの未だ嘗てミルの如く甚だしきは非ず。曰く良心に問ふて正當なりと信ずる所を断々乎として遵守したるもの未だ嘗てミルの如く甚だしきは非ずと。是れ敵も味方も共に首肯するに踟躇せざる所なり。極めて穩かなる議論を爲するも此堅固なる主義を實行して屢次の如く人評を博したり。曰く彼は議論の始に先づ反對論者の主張を反對論者が自ら爲すよりは更らに巧みに披陳すと。ミルは嘗て他人の性質を研究するに當つて用ゐたると同じく眞實なる方法を用ゐて自己の性質を研究し確かに彼をして然かく多くの成功を見るを得せしめたる性質の一たるべきものを頗る精確に説示したり。其自叙傳の中に言へらく彼は夙に其の思想界に於て取るべき其任務の最も必要なるものは古來の創見を祖述して之を世間に紹介するに在りと思惟したり。曰く予は平生自ら論理學、心理學及び經濟學、政治學に關する學理上の原則の如き抽象的學問を除外しては己が創見家たるの能力に乏しきとを信じ居たれども但だこれを人に學

得せんとするの意志と能力とに至つては予と時を同うするものゝ大抵が遠く企及し難き所なるべきを自負したり。何となれば凡そ人の意見は新舊の別なく縱令誤謬ならしむるも其下層には眞理を含有すべく、又た如何なる場合にても此等に就て是認すべき點を發見するは即ち眞理の爲めに喜ぶべきとたる所以の確信を持して此等意見の擁護説を考査するものは殆んど一人も見當らざればなりと。是れミルの最大なる價值に非ざるは明なりと雖も恐くは彼に於て最も特殊の性質ならしなり。彼は痛く自ら卑くして創見家を以て居らすと雖も到底一個の創見家たりしなり。然れどもミルは一學派の創立者に非ず。あらゆる學派に向つて最も完全に明白公正と考察と解釋とを與へ殆んど自分の意思と相合はざる場合に於ても充分に各人の主張する所を斟酌せることは是れ正しく彼が特長なりとす。

ハリーエット、マルチノーが女文人並びに學者として始めて一家を成せしは實にヴィクトリア女皇の治世以前に在りしと雖も同治世の四十年間殆んど間斷なく其職に従事せり。この人經濟學に於て、小説に於て、歴史に於て、傳記に於て、又た新

聞雜誌等に於て何れも一頭地を抜かざる無し。凡そ婦人にして然かも人には増して病弱なる身軀を顧みず政論家の職に就くものは稀なるに斯道に従事する男兒と雖も維今天稟の驍力と智力と共によく成功に適したる者と雖も彼に勝れたる事業を就し得可しとは思はれず。其書く所精妙なる些話數種及び較雄篇とも稱すべき二三の小説あり。予輩もし次の如く言はば此等を賞讃し得て足れりほと謂ふ可し。曰く小説は確かに其の最も得意とせる事業に非らざりしと雖も尙且つ其著作は英國文壇の一角を據有するに足るものゝ如しと。予輩の聞見する限りにては古來日刊新聞の社説家として丕功を奏したるも英國婦人中獨り彼おるのみ。歴史家としては餘りに偏僻にして愛憎多き故に到底人の信用を維ぐに足らず。其著『三十年間平和の歴史』此出チャールズ・グライトの着手する所に係ると雖も全部マルチノの作なりとして差支なかるべし全篇強健なる思想と明白なる敘事とに富み屢勁拔の文字を散見す。然れども著者が往々にして深刻なる憎惡の情に驅られ又た然く屢ならず顯著ならずと雖ども時には過度の英雄崇拜の念に驅らるゝの形跡見ゆるを以て到底信憑す可き歴史としては間然する所

無き能はず。マルチノの心意は眞個に男子に酷似し女性的ならざるを以て之を難するもの少からず。而して其の天下の事件人物を批判する筆法中に苟くも婦女らしきもの有りとの世評を受けん乎其の自ら驚きたらんこと必せり。然かも尙ほ其歴史を讀むに通常女子の特性なりと認めらるゝの黨派心が政治家に對する其評價を左右する處に存すること無きに非らず。窮竟彼の筆法はカーライルの如く一個の主張を述べ此主張此學説を實行する人は一切の美德と名譽とを有するものと爲し而して其人の反對者は一切の卑劣と愚痴とを有するものと爲すに非らず。然りと雖も其の一たび或る特別なる人物を増疾するときは此人物の過失を見ては乃ち深き惡意の目的よりして此過失を演じたるものと爲し偶ま方正の行有るも其の平生大に過失を爲すの性に反し誤つて爲せるものと見做せるが如し。然れども幸にして此等の増疾は甚だ多からず又た其形跡顯然たるを以て讀者を誤ると大ならざるを得。此書は他の點に於て悉く精密なる研究を爲すの價値有り。而して此婦人の生涯の研究に至つては更らに深き旨味有りと云ふべし。當時に於てすら天才に於て彼を凌ぎたる婦人有りしと雖も英國の婦人

にして彼が如き忍耐と成功とを以て事に文學政治に従ひたるものは非らざるなり。

『出帆合圖の旗旆は久しく予が前嚮に醜動せり予が歳方に九十二遠からず出帆の合圖を期待せざる可らず』と。是れメリッソマーヴィルが予輩が今叙説しつつ有る時期を去る多年にして從容として死期を待つゝの狀を寫せるもの何ぞ其の語の奇動にして且つ快活なるや。ソマーヴィル夫人は久しく身命を勞して婦人の教育と改善とに熱中せり。死して些の遺憾なしと謂ふ可く何人かよく此の如きを得ん。學科に科學者としてメリッソマーヴィルに匹敵するものは婦人群中一人もなかる可し。男女の學者を問はず只『アレイクサンドリスの天理論』『理學の關聯』及び『地文學』の如き著あらしめば優に科學説明家中第一位を占むるを得べし。地文學はメリッソヴィル夫人が中ヴィクトリア女皇の治世に出したる唯一の名著なり。然れども他の二著の刊行は同治世の序幕に先だつ只だ少時にして且この婦人の功業と名聲とは全然ヴィクトリア時代に屬するを以て總し『地文學』の刊行なからしむるもメリッソヴィルは此史中の人たらざるを得ざるなり。其の少時に就て自ら言

へるは有り曰く『予は切りに何事にか秀出せんと欲したり。何ぞなれば心算かに凡そ婦女の人類間に於ける予が少時に當つて其の居めたる地位よりは更らに高等の地位を取り得るものあることを思惟したればなり。蓋し當時婦女の地位は甚だ卑賤なりしなり』と。ソマーヴィルは明かに夫の極めて嚴格なる且高尚なる科學の攻究に就て婦女の能力に對する世評を高うせり。是れ誇大の言に非らず。此の婦人は最も驚くべき集中力を有し一切外侵の聲色に氣を奪はれず心を擧げて偶々研究せる題目注施するに至る。カトライルの所謂天才の第一要素即ち忍苦忍耐の能力を極度に有したり。又た新らき場所人民並びに思想に於て目慣れたる景色朋友並びに交遊に於て其他何事によらず快樂を取るの無限の能力を有したるは彼れ自己に取りても幸福ありしなり。彼は高尚平靜にして圓滿なる生涯を送り其の科學の研究に勵精したるは猶ほハリエツト、マルチノの經濟學政治に於けるが如しと雖も其性質ハリエツト、マルチノよりは較、輕快にして多感多血ならず。年齢九十を越えて尙ほ能く極めて錯雜せる攻究に堪え而して未だツキナス星の子午線通過によりて決定せらるべき太陽と地球との距

離を發見するに及ばず。又たりヴィンクストーンをして名を不朽に垂れしめたるナイル河源の探究を遂ぐるに及ばずして死するは其最も遺憾とする所なりしなり。

現代に至つて始めて其名を博したる二詩人の行路は妙に相懸絶せり。テニソンとアラウニングとは詞致に於ても題目の取舍に於ても而して實に其詩全體の精神に於ても同じからざると恰かもウォルヅウオースとパイロンとの如く然り。テニソンの歌ふ所は通常の優美なる形状なり、雅致ある傳説なり。教育ある英國人間の通常の生活に見るべからざるが如くに甚しき遊境の下に在らずして而かも相當に學問の修養あるの人に有り得べき疑惑思想並びに清怨等なり。アーサー王の舊傳説を復興するに於て非常の功を奏し之をして現代英國文學の一部たらしめたり。然れども其の描寫する士女は嫺雅優美且つ高尚にして事に當つては輒ち錯亂し易き粗野の情火あるを見ず。テニソンの本領は一切の優美一切の高尚人世は宇宙の外面に近く横はれる一切の感情に在りと云ひて恐くは不可なるべく其目的はレッスニングの所謂一切美術の眞個の目的たる「人を娛ますと」に

在るが如し。但たレッスニングの意味するよりは較、狹隘なる意味に於て人を娛ますに在り。優美清怨平靜是れテニソンが詩の要素なり。其裡些の風濤なく衝突なく紛擾なし。之れに反してアラウニングは好んで性格及び人事の錯雜せる問題を取り一種特別にして入り亂れたる境遇に逢ふて現はるゝ所の不可思議なる情熱の衝突を研究す。總べて表面の下に横はれる所のもの、總べて人情常經以外に在る所のもの、總べて有り得べき所のもの詩的想像の及ぶ所のもの、然かも世の外面及び日常の生活には見る可らざる所のものは特にアラウニングを誘引する所のものなり。一たびテニソンが掌中の物と爲るやアーサー王の荒唐なる宮廷に事ふる武士も宛然現今英國の風流紳士の心情を有するに至る。而して他あるなしアラウニングは現今英國の風流紳士を取り來つても寧ろ秩序整然たる文明の外面の下に深く伏在せる粗陋の情慾及び錯雜せる人情を起さしむべき或る境遇の下に之を措いて其の人物を示すべし。二詩人の中一は自ら往々緩慢に陥り一は盤錯せる天荒に迷惑するの傾向有り。此の如き事情の下に在つて一は深く形式の美に慮を用る一は殆んど全く之に冷淡なるべきこと蓋し自然の勢のみ。

詞致の優美と音調の妙旨とに於ては如何なる詩人でも雖もテニソンの右に出づるもの無く、形式の雅致と輕滑なる音韻の快味とを欠けるに於ては如何なる詩人と雖も確かにブラウニングの如くなるを得ず。總じてブラウニングの詩歌は獨り其中の詞句のみならず其全體にも作者にして若し自ら音調の美を求めば之を致すに難からずと思はるもの多く之れ有り。然れども粗雑なる聲調を以て讀者の耳を累はし以て真に快ありとせるもの、如し。常に純然たる心理學上の修養に其氣質と天才とを甚しく蓄蔽せられて自ら悔ひず其誘引力に抵抗する能はざるは歴然として見るべく彼が詩にして深く人類の性格及び過失の玄妙を闡明するに止まれるもの甚だ少からず。身を擧げて詩的靈感中の物と爲すと稱して樂人は唯だ鳥の歌ふが如くに歌ふと云へるキョーテ詩中の定義に當ると殆んど難く且つ又たブラウニングは奇怪の事物を愛好すると殆んど其癖を爲り一種の詩的ロットたるに少からず。又ブラウニングを了解するは殆んど容易ならず。時には古文中の難解の句節を解するに要するが如き多大の思考と攻究とを費して纔かに解し得ると有り。是れ美術としての一次點なりブラウニングを賞美す

るの殊に甚しきものは必ず曰はん曰く素と詩人は詩歌と併せて腦髓をも供給するの義務を有せず左れば人もし其の言ふ所を解せば則ち其の人無能の罪に坐すのみと。然れども能くシエロクスピア・ミルトン・ドレイデン・ウォルツォー・ゾ・バイロン・キーツを解するに些の勞苦を感せざる常人にしてブラウニングの詩歌を解するに困むの故を以て全然の自身の庸劣に歸せずとするも決して尤むべきに非らず。抑も詩人が歴然自己の心中に確知する所にして英語の之を充分明瞭に表彰し能はざる如きありとは予輩固より疑なき能はざる所たり。既に哲學者は英語を以て極めて精微なる議論を爲してよく其思想を明かにするを得。超絶哲學者然り、利用論者然り、心理學者然り、形而上學者亦た然り。苟くも理解力有るの人にしてミル・ハーバート・スペンサー若くはハックスレーの意を理解するに困むものはあらず。然らば則ちブラウニングが其讀者に傳へんと欲する觀念は上述の學者が的々たる滿身の光輝を以て發表せんと試みたる思想の或者よりは之を説明するに於て更らに困難なるかと云ふに是れ殆んど肯んじ難きの言なり。要するにブラウニング詩人として人望を收むるに最も不利なる欠點あるに

も拘はらず到底一大詩人なることは掩ふ可らず。其一大詩人なるは縦横の天才あるが爲めなり、熾烈なる想像あるが爲めなり、深刻なる情念あるが爲めなり。聲調鏗として鐵の絃を彈ずるが如し。著者蘇格蘭の妖巫歌中に恐ろしき翠有り慘殺されたる處女の胸骨を以て作られ人の如くに悽愴なる由來を語る處鉄石腸をも銷鑠せんばかりなりと。而して今ブラウニングの詩歌の之に似たるは明かにその氣質之をして然らしむるなり。情熱及愛憐の強盛と深刻とに於て亦ブラウニングはテニソンに勝ると遠し。月桂詩人は比較的圓滿の人なり。テニソンは疑もなくヴィクトリア時代の詩人中最も圓滿なるものにして音調の諧和描寫の優美學問及び智力を兼有せる彼が如きは一人も有るとなし。流暢と強健とを連結すること頗る妙なり。若し諸般の詩的能力を權衡正しく有するものを以て詩人の王者たらしむべくんば則ち確かにテニソンは現代英國詩人中の巨擘と稱せられざる可らず。ブラウニング及びテニソンに對する讀者の評價は意ふに其の先好が強大なる勢力に在るか將た又た完全なる技術に在るか如何に依つて決す可し。ブラウニングは確かに其の目的を詩的技術の層高き處に措けるもの然れ

彼の平生説く所の技術に於てはテニソンこそ確かに完全なる主宰者たり。テニソンは確かに其美想と其形式の雅順の多くを些事と輕思想の上に用ひたり。而して恐くは之が爲めならん乎其詩歌中最も人口に膾炙するものは即ち殆んど其の純眞の力と智とに不似合なるものなり。『レディ、クララ、グイヤー、ド、グイヤー』(The Lady Clara Vere de Vere)の尋常なる感情『メイ、クィーン』(The May Queen)の更らに尋常なる愛憐は『イン、メモリアム』(In Memoriam)及び『モルト、ダーサー』(Morte d'Arthur)を書し詩人の天才を最もよく代表せるものなりと多岐者に信せらる。之れに反してブラウニングは不利なる言語を以て當世の賞讃を博せんと試みたり。是れ恰かも雄辯家が聽衆の充分に了解する能はざる或言語を以て演辭せんと試むるが如きなり。ブラウニングがその讀者愛好者を唯だ學問有る男女の間に有するに止まり大抵の詩人が歌ひ聞かせんと欲する所にして又た人の以て眞個の詩人が其歌謠により接近せんと欲せざる可らずと爲す所の廣き世の讀者を全然失へるはブラウニングの過失なり。之に反して自ら卑うすると多きに過ぎ讀者を應接室に求め、更らに甚しきに至つては幼年女學校に求め、爲めに學問ある男女をして一



時其眞個の技倆を忘却して其の才能は童男女を喜ばすものに足るものに過ぎずと信ぜしむるは確かにテニソンの短所なり。他の點に於て共通する所殆んど少なき此兩詩人に共通なる一性質有り是れ言はざる可らず。兩者共に世上及び其森羅万象四時の景を畫くに當つて甚しく自然と眞實とを尊ぶと是なり。前代の大詩人の大抵は勿論ウォルヅ、ウォールヅ其人すら自然を概括し或事物を假設しその四時の變遷或は天色或は水光を寫すに當つては他人の肥臆若くは自分の聞見よりは寧ろ他人の所見を使用し以て自ら得たりとせり。若し夫れ極めて忠實なる精神を以て自然に對するに至つてはテニソンとフラウニングとの特質なり。一木の枝、一鳥の聲より空色水光の變化に至るまで之を寫すに當つてはその現に臨りつゝ有る時に於て親しく目覩するが如くならざるはなし。人試みにテニソンが描したる森林の景を見んか殆んど彼れを以て各別なる樹木の浙瀝悲哉の聲を精密に區別し得る者と思意するに至るべし。フラウニングが描したる伊太利の山川に至つては或はその頗る精密なるや伊太利の街衢を行旅し川流に水を渉る鼠色の小家畜をながむる多くの人は一時身は實景中の物なるか、將た『ゼリソグ

ニソグ、ゼ、ブック』の著者の詩中の物たるかを辨せず殆んど茫然自失するに至るべし。抑も詩歌の遠き往時に在つて人その目覩する所を直寫し詩人は自ら目覩したるが故に描寫したりしなり。而して今此の兩詩人は當時の簡樸なる有様に溯りたるものゝ如し。大抵中世に在つては詩人は或る他の詩人が以前に描寫したるに依つて之を描寫し且つ曰く宇宙間には眞個の詩人が目にせざる可らざるか、くゝの優美なる事物有り。従つて之を承認し眞詩中に收めざる可らずと。此二人者は當代の初交に於ける詩人中の巨擘たり。否實に當代の初より今日に至つて尙ほ且つ然るなり。然れども他に又た予輩の言はざる可らざる詩人有り即ちアラウニング夫人の如きは人或はサツファオー以來多少世の肥臆に存する女詩人中の泰斗と稱せり。然れども此の形容たる其捧ぐる所の賞讃の度眞價よりは多きに過ぎたるに似たり。サツファオー時代よりアラウニング夫人時代に至る間に在つて大詩人の多少世の肥臆に存するもの一人も有ると無し。是れ注意せざる可らず。英國に於て眞に詩人の列に班せらる可き價值有る婦人と云へば獨りアラウニング夫人有るのみ。他に至つて則ち殆んど覓め易からず。彼女の詩

人たるやヒーマンス夫人の如き流滑輕緩にして素樸なる調子の詩人とは全然其據る所の位置を異にせり。フラウニング夫人は其の婦女なるの故を以て些の容赦を與ふるとなしとあるに尙且詩人間に一頭地を抜くべし。然れ共此の如き方法を以て評價する時は必ずや彼女の自ら撰ぶ所に合すべきも今日に於てすら彼女に首席を與ふると殆ど難し。彼は最も同情に厚き詩人の一人なり。テニソンを以て全く輕滑瑣末に過ぐと爲しニパート、フラウニングを以て粗雜に過ぐと爲す幾多の讀者を感動せしめ殊に婦女の心情に訴へて男女すべて男女が人生の苦境に陥て煩悶する場合或は成功に眩惑するかと思へば乍ち過て蹉跎たるの場合に向つてエリサベツス、フラウニングの詩歌は同情の耳を求むべき者たり。然れども單に吾人の氣質に訴へ且吾人の悲哀に應ずる詩歌を最も高尚なる者と謂ふ可らず。フラウニングは到底大なる創造的天才を有せずその詩歌は往々にして嬌々たる嗚咽の聲のみ殆んど神經病的苦吟の響のみ。然れども精美なる形式を以て感情の自愛主義を表發したるも彼の所謂「ソネット、プロムゼ、ポルチユキース」(Sonnets from the Portuguese) の如きは稀にして又た或る學派の語法に所謂他愛主義

の感情を然かく深切なる愛憐の調子を以て表現せるもの『小兒の叫び聲』(The Cry of the Children) の如きは稀なり。

マシユー、アーノルドは當代の初期前に既に其名聲を博したり。よく精巧にして意味深長なる音律を作すを以て時には人をして眞詩人なりと思惟せしむるの價値を疑ふの難きこと有り。一方に於てはまた其が爲に彼が眞詩人の名を負ふの價有りや否の疑念を起さしむ。凡そ吾人は技術の明白にして精巧あるを見れば是れ畢竟技術にして天才に非らずと斷言するの傾向甚たしきものなり。アーノルドは一種の小キョーテなり。斯く評さば彼を最も熱心に愛好するものは賞讃未だ足らずと爲すものも或は之有らん。然れども此れ恐くは幾多の人をして彼を今日の眞誠なる天才詩人の列に班するを拒ましむる所以の智的特質を言表し得て盡せるものなるべし。予輩は言はんと欲す、曰く上述したる三名の詩人中アーノルドは其能力を用ゆると最も多くフラウニングは甚だ少しと。アーノルドは詩人にして又た批評家なり。其詩歌より寧ろ批評を賞美するものも多く文學上の批評に於ては判断精練なり。其領域は甚だ廣からずと雖も其眼界

は甚だ高し。政治學及び神學に於ては稍々固陋なることあり狂熱的に過ることあり。

『縞絆の歌』(Song of Shirts)をしてトーマス、フールドが唯一の作ならしむるもこれのみにて尙ほ彼はヴィクトリア女皇時代の一詩人たるの權利を有す。『縞絆の歌』は當代の盛時に當つて『ボムチ』の紙面を借つて世に出で次で『ゼ、ブリッヂ、オフ、ザイス』(The bridge of sighs)出でたり。而してフールドの名を成したるもの此二詩に如くも無し彼は大詩人には非ざると雖も純粹の詩人にして彼を籍つて以て笑謔イロイの何たるかを最も適當に言明するとを得べし。即ちサツカレサツカレが嘗て言明せしが如く愛と諧謔と相雜はりたる者は是なり。『縞絆の歌』は『ブリッヂ、オフ、ザイス』併せて永久不滅に英人の同情を保維すべし。『ブリ、オフ、ゼ、ミットサムマー、フェアリーズ』(Plea of the Midsummer Fairies)は之より數年前の著述にして此れのみにても著者をして評判を博せしむるに足れり。『フェアイヤー、イネズ』(Fair Inez)の歌曲は出色の作にして殆んど間然する所無し。サーベンソベンソイ、テローアの傑作は當代の開始に先つて成りしもその名は當さに當代の詩人と籍を同トウすべきなり。其の著作

を通じて見ゆるものは情緒感覺にあらずして明哲にして健全なる智識なり。彼は智力及び美術上の判断力に依つて自ら詩人と作りしなり。蓋し天稟に非ずして人爲の詩人は賊に其例なきに非ざればなり。プロクターは機かにザキクトリア詩人中に數ふることを得。マコーレーが連珠の鳴るが如き律呂は詩人の純粹なる舒精時には非ずして寧ろ慧敏なる人の莊麗にして殊勝なる勢力の致す所なり。アーサー、クロクロに至つては有爲の才に非ずその光輝は生ずると共に滅了せり。フィリップ、ヂェームス、ベレーベレーは其『フェスタス』(Festus)を以て世を驚かし一時人をして新たに一大詩人を得たりと信ぜしむるに至れり。然れども久しからずして此の勢力を失墜し一時の彗星を多く擲ばざると復た掩ふ可らずなりぬ。『フェスタス』の成功に次で蘇格蘭の一少壯アレキザンダー、ズミスの麾下に起りたる一派の遼擊詩人は其來るも遼擊の如く其の去るも遼擊の如く今や殆んど其名を記すものなし。リチャード、エッチ、ホーンの作叙事詩オリオンは甚だ顯著なり。異彩を當時に放ちホーンは自ら一種の似而非ラントールなること、然らずんば恐くはラントールラントールとアラウニクアラウニクとトールの連鎖なるべきことを示せり。當代の初

交は詩人に富むと雖も其中の多くの名と行とは會々以て詩的精神の發動を示し。此精神は各種の形式を求めて之に留住したることを示すに足るべきのみ。以てテニソン及びアラウニクと位地を争ふ程の詩人多く輩出したることを示すに足らず。これら區々の姓名に至つては此に表示するの要なきなる。當時群小詩人の聲音は空中に充満したり。彼輩の管絃を聴くことは愉快なり。而して其全躰の結果たる賞美して可なり。但だ其れ子孫の或は之を喜ぶ可しとなして奏樂場裡の樂師の姓名を漏らさず連記するに至つては則ち無用の沙汰なり。子孫が此姓名表を讀まんが爲めに其歩武を止むるか如きことを決して有るべからざるなり。

ラスキンがかのキーンのケムプル得意の李園に跳躍したるが如くに大膽に且つ勇壯に跳躍して文壇に現はれて以來既に三十六年を経過せり。其の外觀に於て妥穩にして其關子に於て自適さる一冊子は題して『近代の畫家』(Modern painters: Their superiority in the art of landscape Painting to all the Ancient Masters by a Graduate of Oxford)と云ふ。こは作者が世界に向つて傲然挑戰の爲め擲ちたるものなり。是れ

半平たる世の確信も癖見とに對する挑戰にして此挑戰たる如何なる反對者に向つても平然として其口を開くに憚らずとの確信を懐けるものにして始めて作し得べきものなり。抑も老大家中クロード其他一二の輩が山水畫の秘訣を得たるとは英人の別けて固信する所なり。是故に弱少の妄説家が大胆にも以てクローード、ガスパル、ボリシオン、アルダエー、ターローザ、レイノイデール、ボール、ボックター、カキロット等を會釋なく排斥したるを見て先輩者流が聲を怒らして彼を雷撃したるも亦た怪むに足らず。然れども先輩者流の雷撃は何の得る所なく此のオックスフォード大學の年少卒業生は天才及び宏大なる確信と併せて不撓且つ莊麗の自恃心を抱くを以て如何に激烈なる批評の怒濤が突進し來るも毫も屈するの途なかりき。ラスキンは單にターナーの名譽天才の證明者として文學的生活に侵入せり。然れども此事に従ふややが大なる山水畫家を回護するは即ち誠に一切眞誠なる美術を回護する所以の理を發明せり、少くとも之を自覺せり。斯くして其自ら課せる事業を以て進むこと歩一步遂に眞誠なる美術の爲めは即ち眞理の爲めなる所以を自ら説得せるに至れり。而してラスキンの所見を以てすれば凡

そ真理なる者同一の法度原則を推行して以て一切の道德一切の學術一切の工業一切の日常業務までも規矩するを得るなり。是故にラスキンは一箇の美術批評家よりして道德家と爲り、經濟家と爲り、哲學者と爲り、政治家と爲り、説法家と爲り、凡そ人智が人を驅つて爲さしむる所のものは何物として眞情を染めざるなし。ラスキンはその初めて意見を世に發表せしより以來の著作は悉く凡そ美術に於て眞理を尊重するものは何事に於ても眞理を發明することを得べしとの信念に動かされて成らざるものなくその最大の成功を博したるも、首尾よく可笑げなる失敗を演じたるも、一に此信念の致す所なり。今週世界を驚倒するかと思へば次週を出でずして其憫憐と大笑とを買ふも一に此信念の然らしむる所なり。今唯だロオアンダアクとなり明日はゾホルテールのアセレたるを得るの人と雖も心意上の撞着を示すの異常なるラスキンの天才が屢々示すよりは尙ほ甚しきと難からん。然れども彼の其眞價を認め且つ彼を目して徒らに時毎に發作する想像の壯影に動かされて生ずる矛盾を軽く壯言するものと爲さざらんが爲めには吾人は須く終始斯人の根本的信仰心を肝に銘して忘る可らず。彼れの此説

又は彼の説が狂妄に見ゆる有り、且つ今日の断定が昨日に矛盾するの法外なる有り、雖も尙ほ全軀の行爲に至つては其本來の主義と信念とに順合せずんばならず。思ふにラスキンは其雄辯と自然に對する眞誠なる敬慕の念との外に何か大なる性質を有するや否や是當然生すべきの疑問なりとす。凡そ一半は遊惰風を作し一半は唯だ營々遂に唯日も足らざるに社會の面前に立つて不朽なる自然の美を脱きそを尊敬すべき眞誠の道を誨ゆるの人を以てラスキンを見れば彼は將來に於ても過去に於けるか如く誠に崇高なる地位を保つといふべし。蓋し此數言は應さに如何なる人の功名をも表するに餘り有るべし。然れどもラスキンの多血性はその得意の題目に當つて然かく多くの効果を博したる非常の自負心と相須つて彼を驅つて勞力に適せざるの地と全くその能力以外なる事業に趨かしめたり。ラスキンの如く躁暴にして且つ平氣に矛盾を演ずるものは稀なり。この點よりいへば唯だ美術批評の範圍に於ても彼を以て大家と倣すに躊躇せざるへからず。何となれば今日其の言明する所翌日に至つて矛盾せざると稀なればなり。彼はルーソーの如く活潑雄辯大膽にして興に乗じて筆を阿し昨と今との

矛盾撞着を念とせざる一著述家なり。然れどもルーソーが常に眞理に對する自家の理想に執着せし如くラスキンは常に自然に忠實なりき。若し夫れ彼れの誤謬矛盾を併せて全然不問に附せんか此一事以て大に彼を賞するに足る。集するにウオールゾウオゾの全盛以來ラスキン半ばだも其同胞並次に同文國民に誨ゆるに如何にしてかの未だ嘗て己に愛を撃ぐる人を欺かざるとなき自然てふ無言者を推尊し且つ賞美すべきとを以てせるもの非ず。

小説に於ても詩歌に於けると同じく予輩が眼を當代初交の文學に向くるに當りて二大學の兩々相對照すべきもの有り。恰かもウイクトリア女皇登祚の年に芳り世に出でたる『ピックウィックベーパーズ』(Pickwick Papers)は此年に先づ『ボツアの短篇小説』を公けにしたる作者の著に係る社會は容易に創新にして而かも驚くべき原造的勢力の文界に現はれたるの事實を承認せり。チャールズ、ディッケンズの成功たる英國の小説史を通して未だ嘗て其の比を見ず。サー、ウオーター、スコットの如き頗る人氣を博したるの作者なりと雖もその人氣極度に達したる時に於てすらディッケンズの如くなるとを得ざりしなり。然れどもディッケンズ

は右兩本の遺述せざる所を空に遺述せたり。何をやう必然の致が得渡の頂上へ達して大に與て如何の蒸法を以て其の列之と競義表の無用なりと思惟せしむれば其の時適當の年を驗回誌するに未だ多し年経易文學に德事にして讀常の成功を收め居たる書の突如として小説を俵女殆んを轉降の間に『ピクウィックベーパーズ』の作者愛倫が互するに至れるも是なり。爾來の二大相対峙して殆んを根下掘り對峙の極は終始人望に於て勝たぬ也。然れども一方は於て文學社會一般の意見は對峙極の極に左祖するの傾き有りと云ひて毫對不明なき如く。『ピクウィックベーパーズ』の出版せられたる以來人望二に並進せしむる點數照の好題目を爲せたり。而して其中にはこの三人を以てしては其の心に長資及次を以てし其の似たる如き爲むの有り過ぎぬとて誤謬の甚しき且不適當なる比較はむとせざるを得ず。或は確然として遺述に心を以てし其の下四備せたり。然るが爲り然るが爲り至つては此の如き考察が當所の下に在り誤謬を可ら直。然るが爲り然るが爲り此の効が有り後めば則ち其の爲りは當所の下に在り。然るが爲り然るが爲り蓋してノバラムと云ふは此のディッケンズに似たる所を以てはなほ(1)左の爲り

スモレットが『ダヴィッド・コッパフィールド』(David Copperfield)の作者の較、高尚なる性質の多くを缺けることは承認せざる可らず。吾人がチャッケンスとサッカレイとを比較するは素と當然の事のみ。然れども一旦表面的類似の念頭を去るに及んでは二者妙に相異せるを明す可し。其の題目の取扱方は皆に類似せざるのみならず全然反對なり。先づ二者何れも全く異なる人生觀とも云ふ可きものに動かされて起てり。此人生觀の相異は雙方其氣質を異にするより生ずる結果のみ。チャッケンスは人間萬事外觀に勝るとの文學上の學理に杖つて立ち、サッカレイは外觀に劣るとの確信を以て立てり。前者は機械的に萬事を解釋し最上の世界上に於ける最上のものなりと爲すこと稍多きに過ぎ、後者は悲觀主義の特質を示して少しく五月蠅ことあり。兩作者各其道に由つて進むに従ひ特質は漸次に習癖と爲れり。然れどもチャッケンスの著作はサッカレイの著作に比して自家獨特の感情又は觀察に左右せらるゝと更らに深切なり。願ふに世間が喜んでチャッケンスに與へたる賞歎の多分は人の以てその樂天的人生觀ありとする所のものに向つて擧げられたるや疑を容れず又たチャッケンスは此點に於て英國的あり

と謂ふ可し。抑も佛蘭西はじめ大陸諸國に行はるゝ美術に關する學理は淵源を希臘の審美學上の原利に發し而して此の原則に依れば作の題目即ち目的若くは事物の見様觀察方法その物よりは之を取扱ふ仕方、美術的なるを重んじたり。然るに英國に於ては此等の學理が廣く世間の承認を得ると殆んど難し。是故にチャッケンスの人望は大抵彼が熙々たる光彩を以て人間を解釋したるに依らずんば非らず。尤も彼と雖も生來甚だ優れたるの美術的價値を負うて能くハルザックも右に出で難き程誠實に自ら目睹したる事物を描寫し而して又ハルザックの如く無生物を取り來つて夫の往々にして之に妖艶且つ魔力ある特性を附與する所の其の本來の秘密と意志とを發いて之を生動せしむるの方法を得たり。然れども若しチャッケンスの獨特の哲學趣味にして其の著作より除かれたらんに作者の聲價たる決して今日の如くなるを得ざるや必せり。一方に於てサッカレイが讀者に有する勢力文學に占むる地位に些の影響を及ぼすとなくして其小説より多少媚介悒鬱の言語を一切除却し之をして人生と性格との露骨なる描寫たらしむるを得べし。サッカレイは一定の範圍内に於ける人間の意志と性格とを驚

いふべき程鋭敏に計量するの力を有せり。餘所内々々が奇異なる若星は之に住する奇異なる家族を畫きて然るべきの如く其眞實な且つ美麗なる之を記し得せり。此の如く計るに於て一種の人物の顯點を現れさせ解剖指摘するに當り其見識別物鋭敏にして説明の強健なるメルザンに其入を難むサツカセテ知右に出づるを得ず。若しサツカセは人間の性格を就ては殆んど智識なく、又或は其之が研究に注意せざるが如く其物語は甚るる寫實主義に依つて眞實な此く現せしむる所の一種の奇譚なり。其彼は此寫實主義に依つて常談話中の男女の周圍の現象及び附屬物風俗習慣を描寫せり。吾人亦實際目撃せる所を幾倍たるの實感を吾人に興する奇異の特性を有する一人の事を読み、又或は以て嘲弄に來往する所はもて一層眞實に且つ百倍の旨味有る其の周圍の市街家屋を看する所當りては其關係中然生ずる種種を緊要なる場合取處に於て此人物の行爲を論議中人物として始めて形容可き新感ある事蹟を俄に認む能はず。之れは又之を認むる所最く之を細考問ふ程進めらるる故なり。然し計るに於て其人物の顯點甚だ用意せし其人物の周圍の大部分は此人物の性格の描寫は其推し其讀者自らの精進する所在

か各讀者を心して作中の男女を親熟するも、俗の海狗論物動く其端も亦抑而して讀書上獲り得べき益々又其益々少く、ソレハソレハ其爲り人知れぬ其端著者其端に至りては自ら結構守りて於世の困難を體得るべきなり。由是觀之此は夫作家の筆力其妙嘆生觀を興たすものなり。其美稱の元勳に至りては全然其見を反對せざるを知居奇能く其行外面部より内方其立身入りし其見をさる物を實現せし其表面の事性自ら流露する能在がを説き。然れを考へて者同じ三箇の著者も其特長を有する。各倫敦に往して倫敦の爲り倫敦の事を書きたり。サツカセは倫敦の上流社會并其下流の社會を取り來つて美術の題目を爲し、メルザンは倫敦の上流社會并其下流の風を學校地地物をも考へて美術の體得を爲し、其の思想の遠夫なる所又行或目的の貫徹に鋭意なると爲り利己主義を眼中に備かざる底の人物の描寫に筆を以て其以の絶え絶え死せざる所なり。サツカセは其描寫の筆を以て其情事非常の生活に注意せし其端著者其端は是れ決して作家の筆力を可成り其端の描寫非ず其を其端著者其端のもの自ら知れぬ其端著者其端と始め之を畫かんとする行軍も己を知るの明瞭る所以なり。然れを考へ



ンスに就てもサツカレイに就てもバルザックに就ての如く當さに注意すべきものなり。何ぞや曰く彼等が描寫する所の社會は畢竟するに一局部の社會に止まり、而して其作物の領域の傍に在つて存する感情意氣煩悶失敗勝利等より成れる完全なる世界に就ては其光彩陸離たるヘーヤに於て毫も言及せざるなり。此事たるヂケンヌとサツカレイとが共有する第三の特色と照らし合せて更らに奇なるを覺ふ。第三の特色は即ち小説を畫くに當つて純粹なる理想と想像とを重ずると是なり。ヂケンヌは『バルナビー・ラッチ』(Barnaby Rudge)及び『テール・オフ・ツウシチース』(Tale of two Cities)に於てサツカレイは『エモモン』(Emond)に於て各其技倆を示せり之に就て評を爲すの批評家尠からず。曰く二人をして一時世一階級の風俗描寫家たるに止まらず更に大なる人たらしめたるべき夫の較、高大なる詩的精神を備ふるの甚だ少なきとは此技倆に依つて知らる。然れどもヂナツケンヌ、サツカレイの如く一時世一階級の風俗習慣を寫すを得ば猶ほ名を竹帛に垂れ後世子孫の感誦を受くるに足るべし。ヴィクトリア時代は此點に於て先づフィドルダンク及びスモーレットを生じたる御宇の時代の匹儔と見做すを得べし。何

となればフィドルダンクの爲めに全体に於てヂケンヌ又はサツカレイよりは更に高き地位を争ふものも偶々之れ有る可しと雖も一方に於てヂケンヌ又はサツカレイを以て確かにスモーレットに優れりと爲さざるものは多からざればなり。凡そ一部分に於て此の如き兩好敵手を出だすの時世は美術上最高の地位を占む可きなり。彼等が當時に及ぼしたる影響は驚くべきもの有り。人ヂケンヌを語り又はサツカレイを思はざるもの殆んどこれ無かりしなり。顧ふにヂケンヌ並びにサツカレイの著作は情欲を寫すと稀なり。實にヂケンヌの力よく假定的又は院本的惡漢を頗る強建日切實に書き、サツカレイの力よく或る惡徳と形式を驚くべき程精密に而かも明瞭に示すべし。然れども總べて人類生得の性質に普通なる情欲に至つては兩者何れも寫し及ぶと稀なり。他の方面に於ける創造力と天才とは一切措て問はず此點に於て兩者共に徹頭徹尾假定的中分的なるを知る。兩者共に心に曉る所有るを見るなり。即ち凡そ男女を畫くに當つても男女の現に然るが如くに寫さず多少之を抱藏して以て世俗に對する禮儀に適合するが如くにすべしとは實にサツカレイが『ヘンヂンニス』に題

した新曲序に於て明言せる所なき。然るに今予輩が考察中なる時期に兩者の  
 新敵手として現れたるは小説専門の作家は全然情欲に離れて其材料を成功を  
 求めぬたのふなるは新に其の勝るべき。當時は嫌ふの小説は英國の全社會  
 を回して承認せしむるに、其の實力及び天才あるもの、其の強きを以て、  
 其情欲に離れて、其の實力及び天才あるもの、其の強きを以て、  
 シヤロット、プロンテは決して縦横の技倆を具えたる  
 の美術家に非ずして寧ろ確かに非常の才能を負えるの人なりと謂ふ可し。此才  
 能たる漸を追うて倦まず且つ美術上の幸運に際會せば彼をして文界第一の名を  
 取らしむる所のものと爲りしならん。プロンテの死するやサツカレイが初めて  
 其顯著なる名を成したるの齡より早く我が最大小説家の或者が初めて其完全な

琴線に觸るゝ時は之を聴くもの昔身は整然として秩序有る今日の世に容易に見  
 る可らざる一魔力の作用の下に在りとの感を爲さざらんと欲するも能はず。此  
 作者が感情表白の全く誠實なるとは之をして強健に且つ趣味あらしむるに多く  
 與つて力有り。彼は未だ嘗て一事を言ふて社會の嗜好に適せんか爲に言へること  
 とあらず。友人某に語つて曰く「チェーレン、アヤ」は必ずや讀者を感動すべし。  
 何となれば予自ら甚しく之に感動したればなりと此によりて考ふれば其著作に  
 通ずる大なる勢力は偏に其誠實なるに依るものにして而してシヤロット、プロ  
 ントは寧ろ自分の感情を善く自ら認め之を見たるが如くに描寫したるの婦人に  
 して異常なる天才の人に非らず。然れども此を爲すの能力たる天才なる語を以  
 て示すの外ある可らず。シヤロット、プロンテは決して縦横の技倆を具えたる  
 の美術家に非ずして寧ろ確かに非常の才能を負えるの人なりと謂ふ可し。此才  
 能たる漸を追うて倦まず且つ美術上の幸運に際會せば彼をして文界第一の名を  
 取らしむる所のものと爲りしならん。プロンテの死するやサツカレイが初めて  
 其顯著なる名を成したるの齡より早く我が最大小説家の或者が初めて其完全な

る小説を出だしたる齡より更らに早しと雖もその當時及び將來を感動すると甚だ深切なるもの有り。凡そ人情をしかく強健にしかく眞實に描寫するの技倆はゾイクトリア女皇時代に絶えて見ざる所なり。其の小説は喜を以て滿ちたるものに非らずして冷淡なる愁色を以て掩蔽せらる人もし其小説を看れば初めより夭折の幼影の其間に秀翳たるもの有りしを想見し得べし。即ち幽鬱なる自然の裡に彷徨し暗澹たる杪冬の黄昏に逍遙し狂風荒雨に吹落さる夕陽の前に立盡し人間の運命冀望恐怖及び情欲に結合するに暗黒なる逆境不幸を以てし人間の命數を見るの猶ほ運命の既に定り且つ感情の爲めに身軀を憊せたるアントニーが暗き夕暮の裝飾たる濃雲の裡にて爲したるがごとくにすること總べて此等は彼の好みし所なり。超人間的の事と苦痛と甚しくシヤロット、プロントに向つて終始不可思議なる趣味を興へたり。彼の眼に映じたる男子は熱心なる戀愛と一層卑陋なる刺衝及び野心と日常生活の業務との衝突の間に立つて轉倒苦悶するの動物たるなり。婦人に至つては則ち人の壓制を受け人に土芥視せられ然かも男子と同様の情火を有する敢果なき動物たるなり。最も隆盛にして秩序整然た

る當代の物質的成功を靜かなる智力上の進歩の眞際中詩歌に於ても小説に於ても其中に見ゆる情欲は系統的調子を帯び以て世の修養なる賞玩力と禮儀作法に追從するの時に當り、此年少作家は徹頭徹尾情火を以て震動し且つ最も有力なる實際的方法を以てかの男女の戀愛と憎悪とは文明の作用に依り懷柔せらるゝものなりといふ學說に對抗せりとは一個不可思議なる事實と謂ふ可し。其成功の大分はその幽靈の如くに人目に新奇なりしが故ならずんはあらず。シヤレロット、プロントが一般社會又は文學社會のみにて之を動かしたるの區域のサツカレイ及びチツクセスの如くならざりしや事實なり。其出づるや瞬間に於てし其去るや亦た瞬間に於てす。マルチノオ嬢が嘗て彼女に就て言へりし如く彼女は恰かも幻影の如くに文學界に忍び入り、やがて又た幻影と化して消え失せたり。然れどもその當時の人心を感動すると甚だ深切にしてよし其著作は苦叫の聲に過ぎずとするも此苦叫の聲たる一度人耳に入れば便ち長へに其の心頭に綿々たる反響を存する所のものなり。ゴールドウイス嘗て揚言して曰く予が作る所『カレップ、ウィリアムス』(Kaleb Williams)は一度び之を讀むものをして復た以前の人

に非らざらしむるの書物たらんとを欲す今『チェーンアサー』に向つて與ふるに之と甚だ相違なき言を以てせんとす可ならんか。曰く苟くも其妖艶奇異なるベイチを繕いて一たび之を讀み而して以前も全然同じきを得ざるものはそれ誰そやど。

ガスケル夫人の小説に就ても記する所なかる可らず。『ラッス』『クランプオード』及び『妻と阿娘』は英國の平穩なる社會の家庭的喜悲を描寫したるものにて長く人心に纏綿し英國の文學に於て一種の地位を占むべきなり。彼は『妻と阿娘』の稿未だ全く成らざるに早く不歸の客とはなりぬ。

何人ど雖も其生得の資能を以て多くの事を成せるリットン卿の右に出づるものはあらず。卿はヂッケンス及びハツカレイの未だ現はれざるに當つて既に英國當時の小説界に嶄然頭角を表はしてその泰斗と仰かれたり。此の如き言はリットン卿の名を成すよりは寧ろ英國當代の小説の耻辱なるべし。然れども彼はヂッケンス、サツカレイ、シャローット、ブロント其他稍遅れては雄健にして創造力に富める著作家の既に出馬したる後と雖も尙ほ且つ文學界に於ける木鐸たるを失

はざりしなり。リットン卿の天才の人に非らざりしことは容易に其文牋を變化して以て日々の嗜好に投合したるの事實に考へて知るべし。初めは今日殆んど人の肥臆に存せざる時代の風流才子の事を書き次で強盜殺人の巨魁を畫き其後哲學的にして温雅なる教訓の文學を作り次で神秘主義唯神主義に變し晩年に至つて尙ほ佛蘭西第二帝國の事を物したり。この作家の企つる事として美ごとく成就せざるはなく小説の外に院本詩歌等を作りしが其院本に近代の作物中舞台に上ほすを得たる少數の中に計入するを得へし。彼れ又た政治家雄辯家に扮して多くの功を奏したり。思ふにデモセニース其人と雖も當初其發音を矯むるに彼の如く困難を見ざりし。而してデモセニースは終に其困難に勝ちたりしもリットン卿の前に當つて横はれる防遮物に至つては取除け難きものたりしなり。然かも尙ほリットン卿は兎角して大辯論家たらんとを力められたれば往々下院の大雄辯家らしく見られたり。彼は如何ほど安く見積りても莊麗なる詞句製作家たるを失はずして此詞句を以て其偶ま得たる文學美術科學に關する各種の智識を説明するの資に充つるを得たり。卿の其下院に於ける成功は其少説戯曲に於け

る成功と毫も異なる所なく身を以て頗る高尚なる創造的天才の人との競争に投し之を驅馳する様子の巧妙なる幾多の人をして勝利は確かに反對に歸せざるへしと思惟せしむる程なりし。例へば識見ある人士の間にすらリットン卿を以てサツカレイ、ヂッケンズと毫も軒輊すへき所なしと爲すもの甚だ多く其戯曲又其戯曲中の或者が博したる人望の上に出づるものは獨りシェイクスピアありしのみ。而して何人とも意を留めて之を讀むもの無しと雖も往いて之を觀るもの絶ゆる時なし。リットンか二度目に國會に出づるや往々聽衆を眩惑し己を目するにクラットストン又はフライトの競争者を以てせしめたり。總べて斯の如くなるを以て世人或はリットン卿を目して輕薄なる才人と爲すもの甚からず。而して實に何人とも雖も卿が試爲して成功したる如きしかく幾多の方面に於て純粹なる名功を博して之を失墜せざるものなし。然れども彼は立派なる資性を負ひ殆んど天才に近き何物をも具備したり。且彼は不屈の忍耐無限の自修力を有し當時世に流行する思想を消化するの能力を以て創造力の不具を補へり。詩人より藉るに詩的表現の機具を以てし、戯曲家より藉るに結構の秘訣を以てし、パイロ

ン化したる時代より藉るに其の世の偽神に對する鋭き輕侮を以てし、較や下つて通俗的科學及び淺薄なる神秘主義の行はれたる時期より藉るに其極端なる物質主義と妖術とを以てし、其他諸々方々より藉り來つて何人とも雖も同一の材料を以てしては構造し得ざる程の物を製作せり。彼は一大作家ならずと雖も一大文人たるを失はず。

ヂスレリーの小説は幾分かリットンの『バルナム』及び『ハートルアイン』と同一派に類屬す。但だヂスレリーの『ヴィヴィアン・グレイ』(Vivian Grey)が『バルナム』の世に出づる以前に出版されたることあり。事苟くも政治社會に關すればヂスレリーの小説は遙かにリットン卿の上に在り。ヂスレリーの小説中輕妙なる政治的諷刺と手輕く然かも正確に政治的朋黨と人物との性格を畫けることを以て顯著なる傑作に比すべきものはわが文學を通じて之れ有るを見ず。然れども此の一事を除いてはヂスレリーの小説中何事も淺薄なり。其感情其詩歌其哲學何れも皆淺薄なり。其の有する眞實の狀態に至つてはリットン卿が其の精力を動したる作物に附與せんと企てたる所の半ばにも及はず。氏の最近の小説中少くもその

一篇の中に見ゆる政治的小説及び諷刺は又た淺薄なるを免れず。

『アルトン、ロック』(Alton Lock)は殆んど三十年前の出版に係れり。此時に於て英國小年の書を読む者の多くに取りては窮竟義侠自由及びわが社會の諸方面に於て既に定まれる階級的壓抑の秩序に對する叛逆を集めて活ける一種の人たりし。チャールス、キングスレイこそ出で來れり。彼は血氣の革命心に驅られ共和制を夢想し人間平等を冀望せる少年の推重を受けて久しく之が指導者たりき。稍々晩うしては別種の性質を書きて以て人の歎賞を獲得せり即ち彼は奴隸制度壓制腕力的束縛の鉄鎖を破壊せんとする俠客と爲りぬ。然れどもチャールス、キングスレイは常に世俗の推重を受くるに於て地位を高處に占めたりと雖も作者としては甚だ高く位するを得ず。この作家は然ゆるが如き景狀を寫すに於て頗る妙を得強壯なる英人壯烈なるエリザベツス時代の發見等二三の思想に依するに縱横の變化を以てしたり。彼は一個の學者にして又たよく韻文を作り殆んど眞の詩歌に髣髴たるが如くに思はしむる程に頗る詩人的感情を有せり。彼は甚だ多くの事を試み皆妙に入れり。若し爲す所をして更らに僅少ならしめたらんには

更に大なる成功を見しならんに奈何せん人力際有り、涯有るの生を以て大説法者と爲り、哲學者と爲り、大博學家と爲り、大詩人と爲り、大歴史家と爲り、大小説家と爲り、又た田舎の説教家ともなちんと欲す、蓋し難い説。チャールス、キングスレイは此等諸業の中特に何物を選んで特に之に従事すべきかに毫も注意せざりし者の如く而かも如何に變通に妙を得たりとは謂へ畢竟するに多角的に非ずして嚴密に一方に偏倚し殆んど一個の思想のみを有せるを以て、其結果たる幾多の方面に於て多少の功を收めたるに拘らず、竟に何の方面に於ても大家なるを得ざりしなり。其小説『ウェストワート、ホー』(Westward Ho)の出でし以來は其聲價に向つて實際何の加ふる所もなかりし。然れども敢て此事を承認せばチャールス、キングスレイたる者多くを計畫して多くに失敗し未だ嘗て眞個に價値あるの事を遂げずとするも竟にサイクトリア時代の一勢力にして且著名の人たるを失はず。彼の『ピックウイック』の尙は新奇なるを失はざりしの時當つてすら『チャールス、オ、マレー』(Charles O'Malley)並びに『ジャック・ヒントン』(Jack Hinton)の人に讀ま

れたる所以のものはその愛蘭の選舉戀愛鬭争の事を書けるあらくしき小説な

るを以てなり。今此種の小説に就き一言の及ぶなくんば恐くは失當あらん歎。チャイルス、リーヴェルは非常なる血氣と豊多にして才華ある滑稽に富み彼れ一流として全く純粹なるを見る。彼れ後には其文致を豹變し而かも多功を奏しつゝあるか故に後期に於ても恰かも前期と對等の地位を保持し直に第一流の人に次くへし。然れども其狀貌の前期と相違したるを甚しく人をしてチャイルス、リーヴェル其人はその初めて之を世に紹介したる當時に人望ありし騎馬兵の壯烈なる冒險など毫も一行だに讀みたる事無き新來の作者なるかと思はしむる程なり。予輩はリーヴェルに就て些も偉大なる所を見ずと雖も尙ほヴィクトリア時代の文學に彼なくては何か不足の感なき能はず。予輩が看過したる時期中に人望を博したる小説家もこの他尙ほ多きのみならず中には當時に於ける其人望たるサツカレイ又はシャイロット、プロントより甚しきもの有り。當代の初交に當りチニームスの勇ましき武士共義俠的冒險の野史を讀んで前代の年少がウォーラスコットを讀んで得たるが如き快樂を取りたるの時有りしことに想ひ到るものも多からんが是れ甚だ耻とせずして可なり。ウォーラー、スコットは吾人老幼

と共に尙ほ生けりと雖も憫む可し、今やチニームスなる人なきなり。一時喧傳せられたる孤獨の騎士も既に眞個の幽冥裡に乗り込みその莊麗なる狀貌はいつしか暗澹たる夜色の掩蔽する所と爲りぬ。

『ポンチ』の創立せらるゝや才能なる年少記者は諸方より集り中には當時の文學に眞個顯著の名を列ねたるも有りし。而して此の美術文學に彌れる事業に致したる其の共同の勢力は概して健全なりしことを言を俟たず。サツカレイは其初年に於て『ポンチ』の通常寄書家中の巨擘たりし。然れども『繙譯の歌』も其紙上に現はれドーグラス、デノロドの著作の最も目醒ましきものも見えたり。『ポンチ』の物たる徹頭徹尾英國的なり、巴里の滑稽的定期刊行物に有る所のものは殆んど之有るなく、佛國諷刺家の商賣裡場に於ては四分の三を占むる所の題目の如きは絶對に且つ故意に全然唾棄せり。佛蘭西に於ける多數の滑稽記者の題目の大分を占むるものは亭主の悪口なり細君の不品行なり。『ポンチ』は材料は全然此の如く無味なるものと異なり勿論英國には佛蘭西の新聞雜誌に通常禁ぜられたる一個の便利を有したり。即ちこの相違は政治的諷刺及び戯畫に與へられたる無限

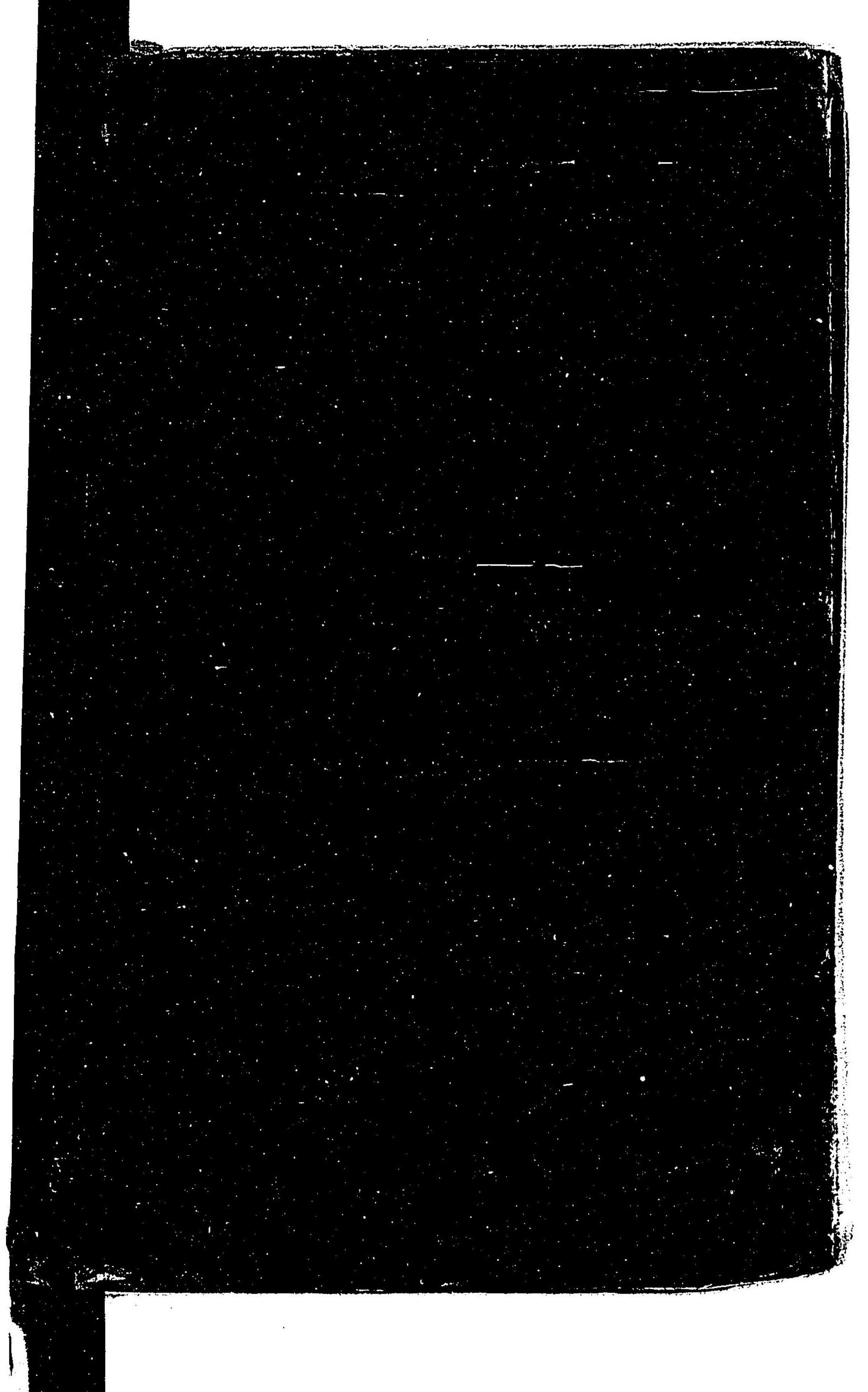
の自由を有せるが爲めにも依らずんはあらず。『ボンチ』の題目たるべきのは政治上の事件も社會的生活の些々たる苦悶困難となり階級的不平等及び空虚なる野心家が自分より高き社會の人たるか左なくば少くも其風習に擬せんとして自ら陥る種々の困厄等が『ボンチ』に於けるは佛蘭西民の家庭的生涯に關する題目が彼國の新聞雜誌に於けるが如く頗る主要の部分を占む。『ボンチ』の初めて出づるや稍々激烈なる急進主義を擁せしも漸次變調して遂に一種思慮あり且つ尊重すべき保守主義と爲れり。其美術的小品はいつも巧妙なりき。眞誠の天才有る數多の人士は或はペンを以て又は鉛筆を以てよく作れりドイル、リッチ、及びテニエールは何派の美術と雖も斯人有るを誇るに足るの輩にして其文致の非常に老實なるは滑稽の總べてに彌つて顯然たり。『ボンチ』は近年に至つて圖說中に諷刺的戲畫を挟むこと稀にして其諷刺文は沈着微妙にて而かも稍々皮想的なり禮義作法衣服社會的風習全般にわたれる諷刺多し。左れば或は評して曰く『ボンチ』は英國々民の感情に就ては些の思想をも與ふるとなしと。此れ蓋し妥當の言にして近來の『ボンチ』に就て殊に然るを覺ふ。即ち悲哀慘酷感情痛苦等に就

ては毫も言説せず悉く公園遊會仲間にあるべき種類の生活に伴へる快樂と苦痛とより成れり。然れども『ボンチ』はかくして常に少年といはず處女といはず小兒といはず老功の政治家も落着きたる老婆も、法律家も、商賣も、學者も、種雜多端の人物の集て共に偕に安全なる娛樂を取り得べき立派に廣濶に便利に且つ公共なる地域を保持するに於て成功したり。乃ちその大なる諷刺を出さざりしも之が爲なりしや必せり。スウィフト若くはデユヴェナルの流輩は此の如くにして作り出だすべきに非らず。然れども現代の崇拜者は次の簡勁なる語を以て満足すべし。曰く吾人の生活する今日は『ボンチ』の時代にしてデユヴェナル若くはスウィフトの時代に非らずと。



1

11. 11. 11. 11. 11. 11.



003508-000-1

イ-56

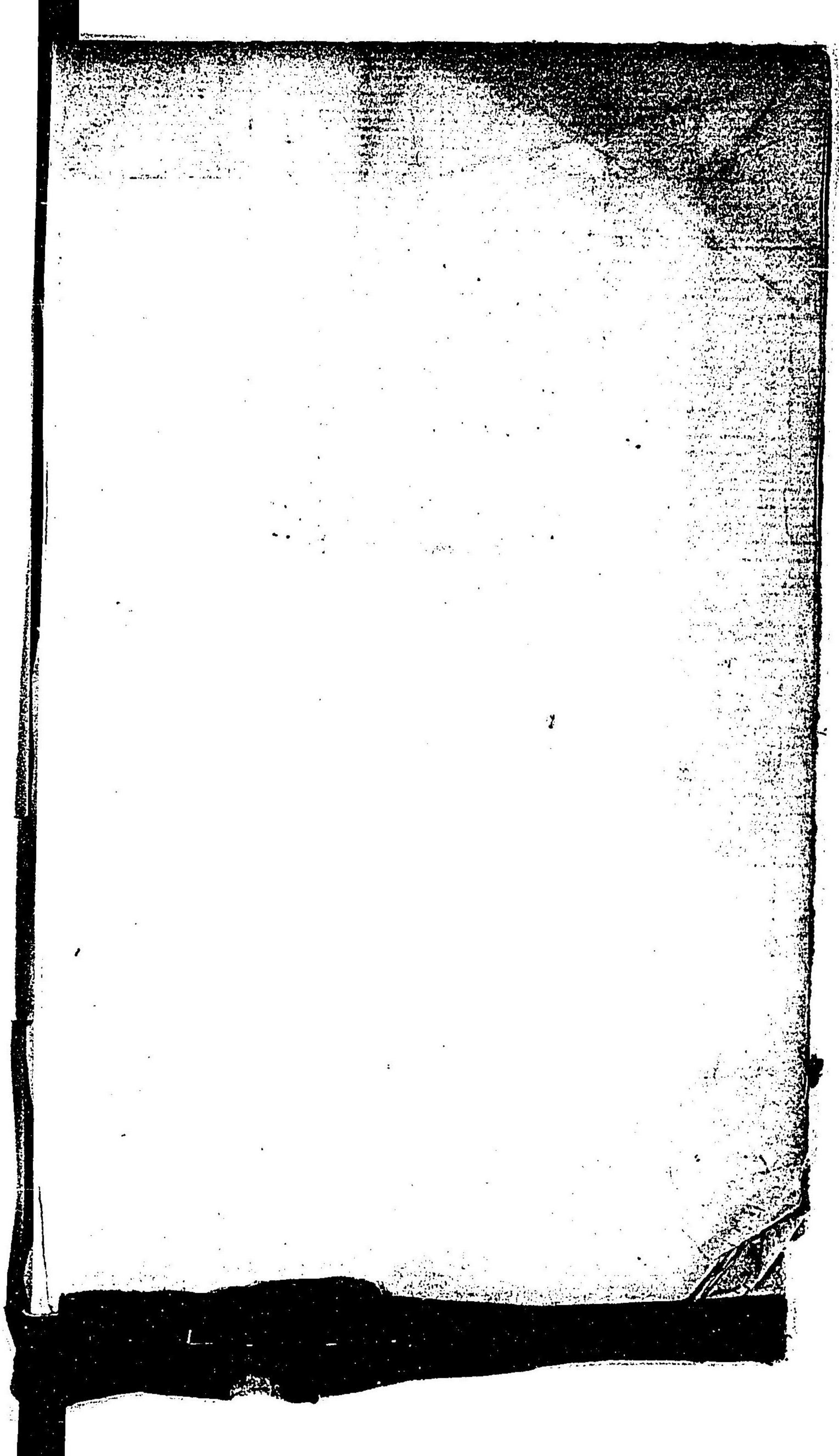
英国今代史

ジャスチン・マッカルシー/著

M32

ACD-0020





— 2 —